

神戸地域夢会議「育む喜び～高齢者のための園芸療法」

と き 平成 17 年 1 月 20 日 (木) 10 : 00 ~
ところ 県立淡路景観園芸学校
参加人数 52 人

開催趣旨

神戸地域ビジョン委員会『高齢者が高齢者のお世話をする』グループの活動の一環として、近年注目の高まっている園芸療法をとりあげ、県立淡路景観園芸学校の主任景観園芸専門員による講義と、会場との意見交換や質疑応答、寄せ植えの実習を行いました。

テーマ 高齢者のための園芸療法

講師 講義：浅野 房世（兵庫県立大学教授、淡路景観園芸学校主任景観園芸専門員）
実習：上原 巖（兵庫県立大学助教授、淡路景観園芸学校主任景観園芸専門員）

講師のお話

園芸療法士は、国家資格もなく、まだ社会的認知度は不十分です。逆境においても自ら稼いで生き残る工夫と、危機感を持つことが必要です。買ってきた植物よりも、自分で採ってきた植物の方が全ての面で良いのです。

園芸療法士に対して、施設側はまだ「雇えば庭がきれいになる」といった先入観を持っていることがあります。これに対し、園芸療法士はボランティアの養成講座を行うなど、地域との結びつきを密にする努力を怠ってはいけません。

園芸実習

チューリップとパンジーの簡単な寄せ植えの実習を行いながら、お年寄りや体の不自由な方への配慮の仕方など、「園芸療法」としての寄せ植えの行い方について説明していただいた。

アイマスクをしたまま作業を行うなど、障害を持つ方の立場を疑似体験する「バリアフリー体験」を行った。実際に園芸療法で用いられている「自己評価表」「気分調査票」などを使用し、作業の評価の方法について学んだ。



意見交換

- ・園芸療法を一般市民の立場からどうサポートしていけるのか、また一般に対してどうアピールして認知させていくべきか、考えをお聞かせください。

この4月から、人間・植物関係学会が認定する園芸療法士資格制度が発足します。この資格はハードルが高いですが、園芸療法アシスタントは、200時間の学習が条件になっています。その学習カリキュラムが次第に整備されてきている状況です。多くの方に園芸療法アシスタントになっていただければ幸いです。